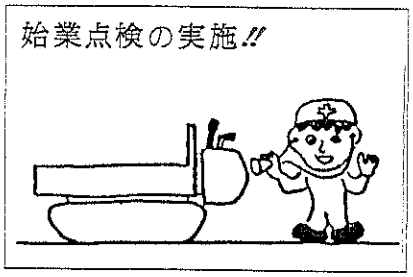
取 扱 説 明 書

BFP302・303・304

No.3525 6501 000

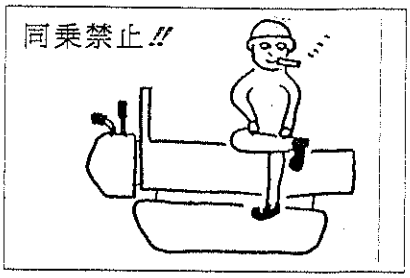
⚠安全上の注意

安全管理



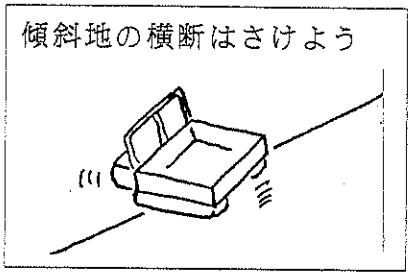
運転の前に始業点検を確実に励行し、異常箇所は直ちに補修してください。

燃料、油脂の取扱い時、バッテリーの充電中や本機の保管場所には火気を近づけないでください。

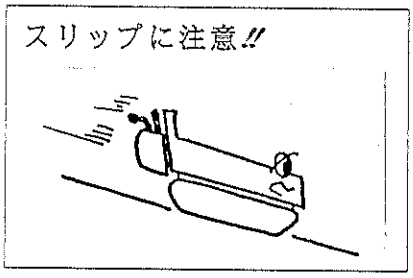


この車両は１人乗りです。急旋回、重心の移動等により危険ですから運転手以外乗らないでください。

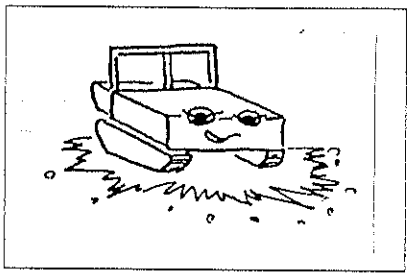
作業中の注意



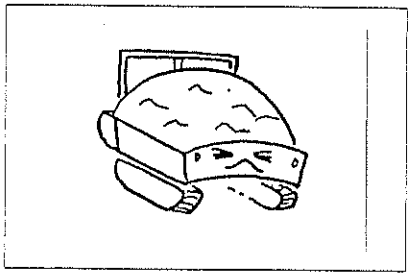
傾斜地ではまっすぐ昇り降りしてください。斜面をよこぎると危険です。また急傾斜地ではサイドクラッチレバーを操作しないでください。やむを得ない時は逆旋回に注意して素早く確実に操作してください。



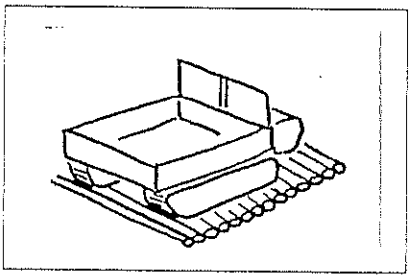
降坂時は変速レバーを低速に入れ、エンジンブレーキを必ず使用してください。



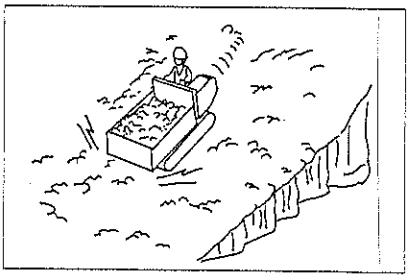
軟弱地盤では、低速で走行し急加速、急旋回および停車はしないでください。



走行速度は、走行時の勾配、路面の状況および荷重に応じた安全速度で走行してください。また過積での走行はしないでください。



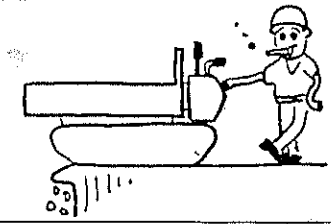
木橋等を渡る時は、本機の自重と積載重量の総重量が、木橋等の制限重量を超えないことを確認し、一定速度で静かに通過してください。



15°～20°の傾斜地では、積載量を400kg以下にして走行してください。20°を超える急傾斜地ではなるべく使用しないでください。やむを得ず使用する場合は空車状態とし、山側にて運転操作をしてください。

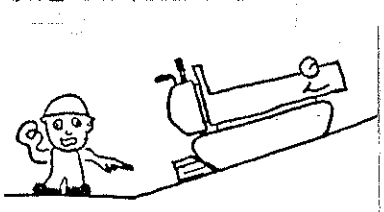
駐停車時の注意

危険な所には停めないで!!



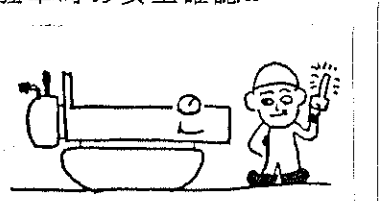
駐停車する場所は足場のよい平坦地に止め危険な場所は避けましょう。

坂道では歯止めを!!



やむなく坂道で駐車する時は歯止めをかけてください。

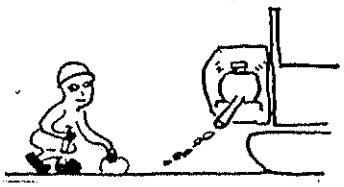
駐車時の安全確認!!



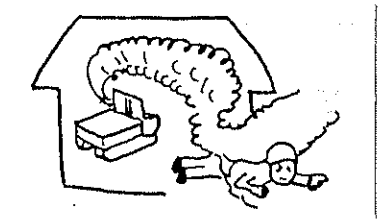
駐車時は、駐車ブレーキをかけエンジンを停止してキーを忘れずに抜きましょう。
（セルスタート式のみ）

点検・整備時の注意

エンジン回転中の注意



エンジン回転中は整備を行わないでください。



室内でエンジン運転する時は排気ガスによる中毒防止のため換気をよくしてから作業を行ってください。

目　次

項　目	頁
サービスと保証について	1
本製品の規制について	1
装置の説明	2
各部の名称 ……	2
各部のはたらき ……	2
上手な運転のしかた	3
始動の準備 ……	3
始動のしかた ……	3
運転のしかた ……	7
停止のしかた ……	8
ダンプ操作 ……	10
本製品の簡単な手入れと処置	11
給脂・注油 ……	11
走行クラッチ調整 ……	11
ブレーキ調整 ……	12
サイドクラッチ調整 ……	12
ベルトストッパー調整 ……	13
クローラ張り調整 ……	13
寒冷時の注意	14
保守点検項目	14
工具袋明細	15
仕様	16

このたびは本製品をお買い上げいただきまして誠にありがとうございます。

この取扱説明書には、製品の正しい取り扱い方法と点検整備を説明してあります。
安全な運転および製品の性能を充分発揮させるため、御使用前には必ずお読みください。
なお、仕様変更などによりこの取扱説明書の内容が一部、実機と異なる場合がありますので御了承ください。

印は、運転・整備作業時に作業者の安全上、特に重要な部分であり必ず守ってください。

サービスと保証について

本製品には保証書交付申請書がついていますので、必要事項を記入して郵送してください。
なお、御使用中の故障・御不審な点およびサービスに関する御用命は、お買い上げいただいた販売店または当社営業にお気軽に御相談ください。
その際、商品型式と製造番号、搭載エンジンの型式名を併せて御連絡ください。

BFP302
製造番号 Product No. ○○○○○○○

BFP303
製造番号 Product No. ○○○○○○○

← 商品型式
← 製造番号
← 製造メーカー名

本製品の保証期間は購入後６ヶ月間となっています。

注意：「取扱説明書」に記載してある適正な点検・整備を怠った場合および仕様を超えた使用・改造等によっての故障・事故については、保証の対象外となります。

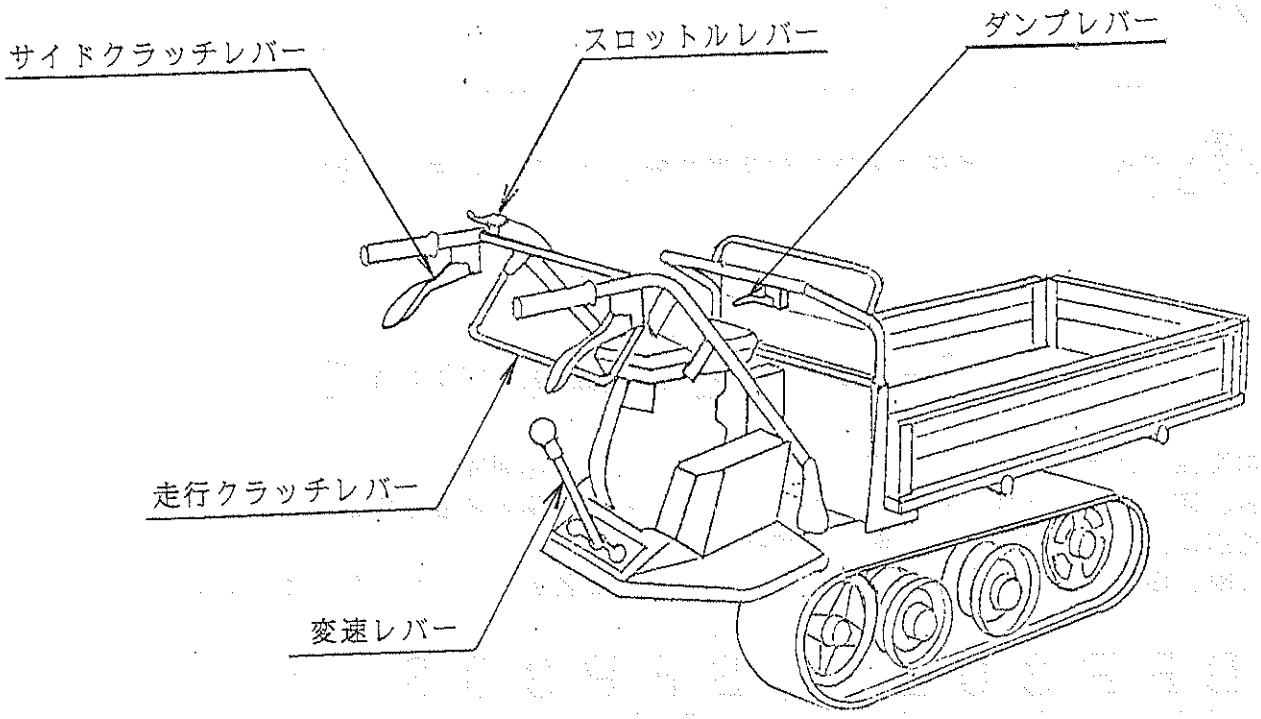
本製品の規制について

本製品は、農業用の運搬車として開発しておりますので、それ以外の用途には使用しないでください。また、道路上での運転はできません。
したがって、圃場や私道以外の運転は違反になります。
道路上での運転による事故および違反につきましては責任を負いかねます。

注意：道路以外でも人や車が自由に出入りできる場所も道路とみなされます。

装置の説明

各部の名称



各部のはたらき

☆スロットルレバー
・エンジン回転数の増減を行ないます。

☆サイドクラッチレバー
・方向を変える時に使用します。
車体はレバーを握った側へ曲がります。
また、左右同時にレバーを握るとその場で急停止します。

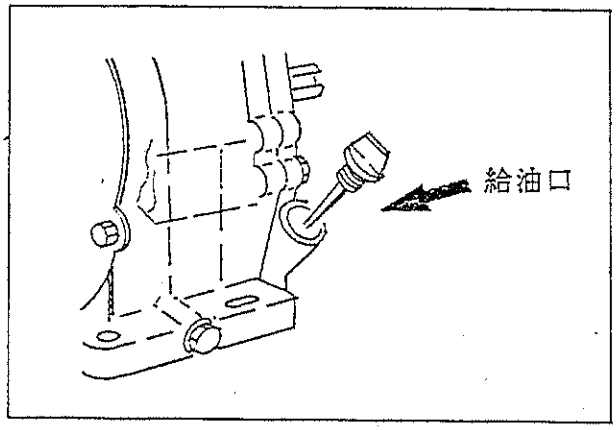
☆走行クラッチレバー
・エンジンからミッションへの動力を断続させます。
レバーを上に引き上げると「走行」の状態、下に押し下げると「停車」の状態になります。
また、このレバーはブレーキ連動式となっており、レバーを下に押し下げると「ブレーキ入」の状態になります。

☆変速レバー
・走行速度の選択に使用します。
変速は走行クラッチレバーを「停車（下）」にして、車体が停止した状態で行なってください。

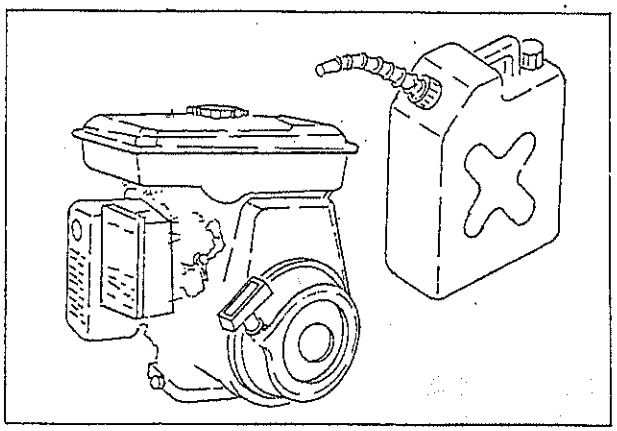
☆ダンプレバー
・荷台をダンプさせる時に使用します。
ダンプレバーを握ると荷台のロック装置が解除されます。

上手な運転のしかた

始動の準備



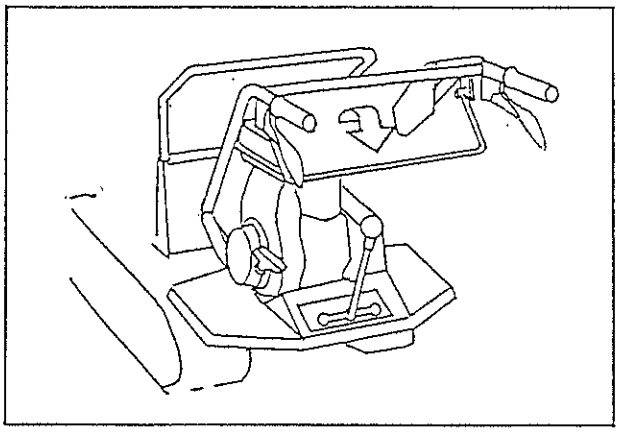
エンジンオイルを確認してください。
オイルの量、および種類は付属のエンジン取扱説明書を御覧ください。



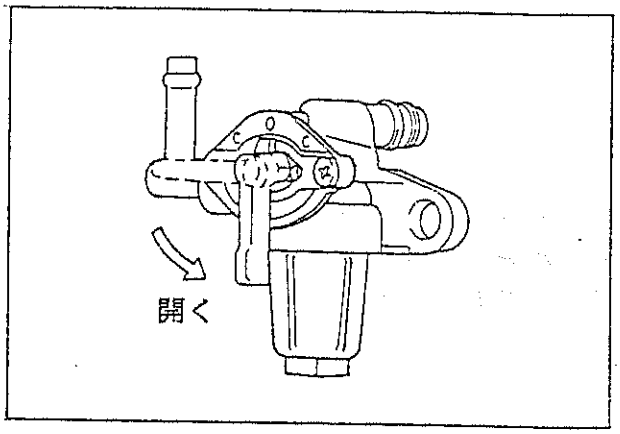
燃料はレギュラーガソリンを入れてください。
燃料タンクの容量については付属のエンジン取扱説明書を御覧ください。

燃料を入れる時は必ずエンジンを停止させてください。
エンジンが熱い時は燃料をこぼさないように注意してください。

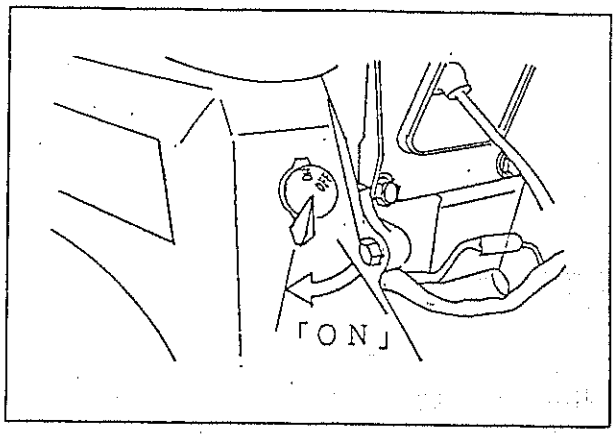
始動のしかた



走行クラッチレバーが「下（停車）」に下げた状態であるか確認します。



燃料コックを開きます。



スイッチを「ＯＮ」にします。
（ＧＳ１２０及びＧＨ１７０セルなしのみ）

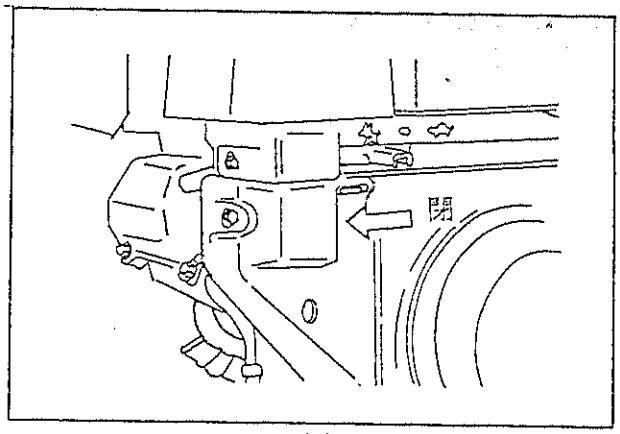


図１

チョークレバーを操作し、チョーク弁を閉じます。
エンジンが良く暖まっている時は、チョークレバー操作は不要です。
図１．（ＧＭ９０，ＧＭ１３０）
図２．（ＧＳ１２０，ＧＨ１００）

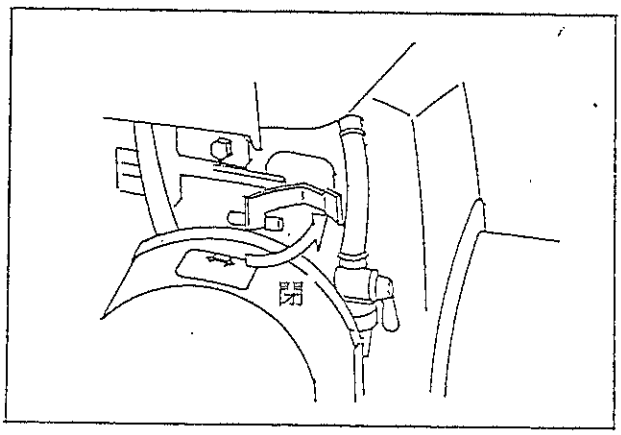
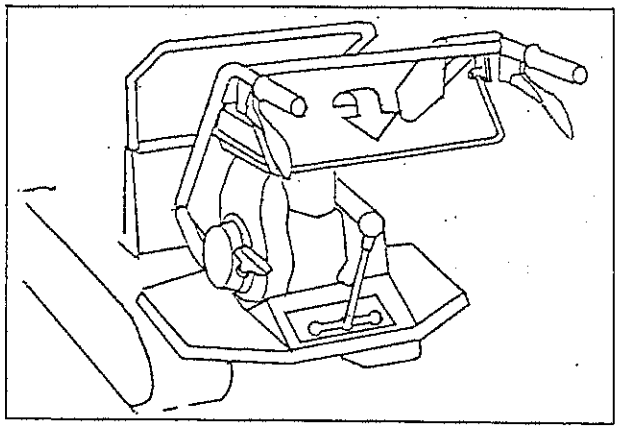
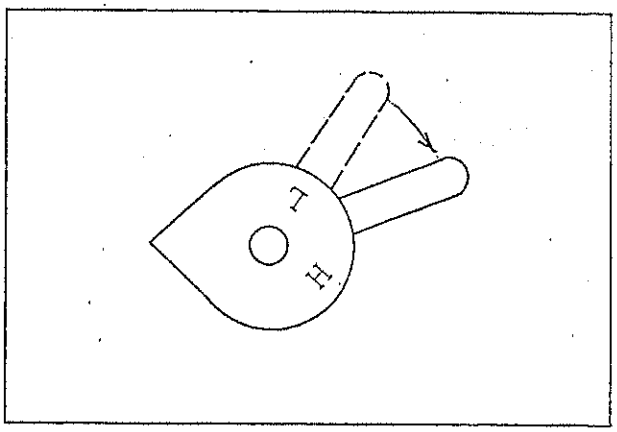


図２



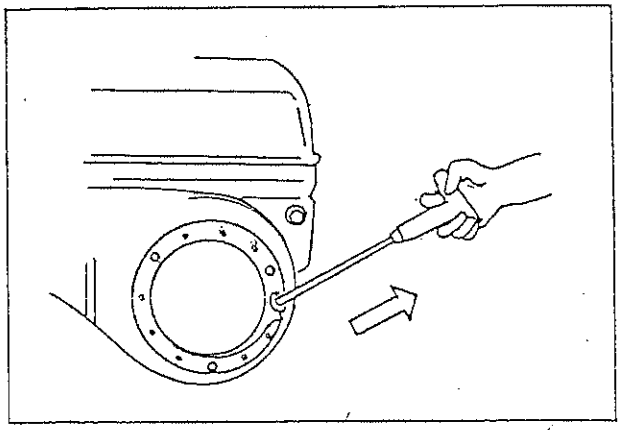
走行クラッチレバーを「下（停車）」にします。



スロットルレバーを中ほどにします。

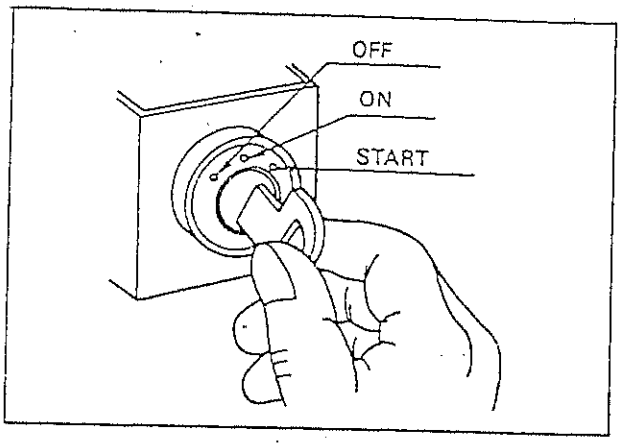
エンジンの始動方法は、以下のようにいくつかありますので御注意ください。

リコイルスターター式



スタータノブを握りいきおいよくひっぱります。
エンジンが始動したらスタータノブをゆっくりと元の位置に戻してください。

セル付エンジン



エンジンキースイッチを「ＳＴＡＲＴ」に合わせ始動させます。
セルモータを５秒程度まわしても始動しなければ、１０秒以上休んで再スタートしてください。

エンジン始動後はチョークレバーを戻してください。
図１．（ＧＭ９０，ＧＭ１３０）
図２．（ＧＳ１２０，ＧＨ１００）

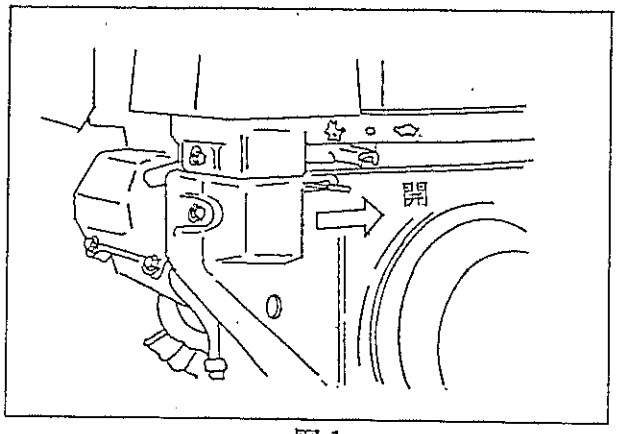


図１

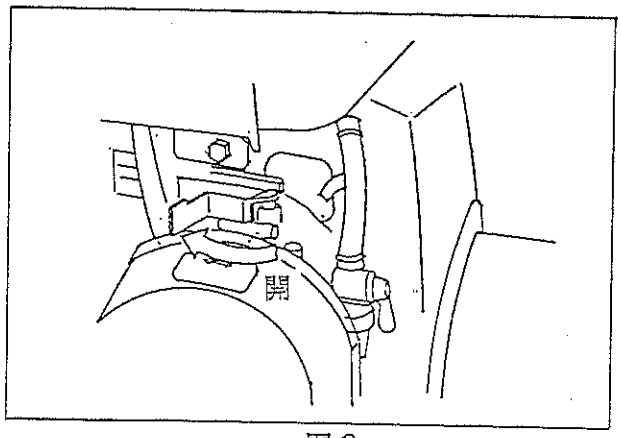
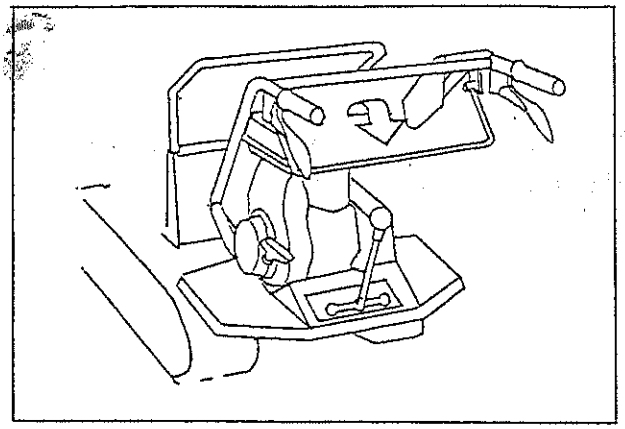


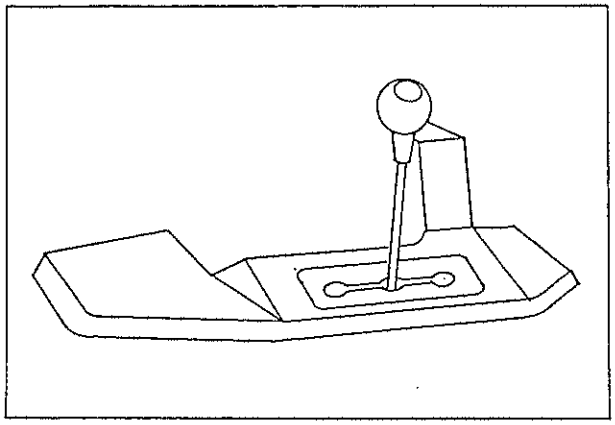
図２

注意
（１）エンジン回転中に、キーを「ＳＴＡＲＴ」位置にするとセルモータが破損することがありますので、絶対にしないでください。
（２）エンジン始動後、負荷をかけずに１～２分間位、低速側で運転（暖気）します。

運転のしかた

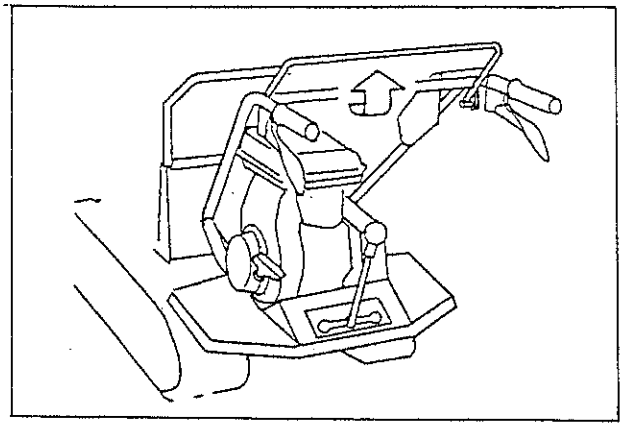


走行クラッチレバーが「下（停車）」に下げた状態であるか確認します。



前進　２段　　後退　１段
変速レバーを所要変速位置に確実に入れます。

変速（ギヤチェンジ）が不充分な場合、ギヤ抜けのおそれがあり大変危険です。
ギヤが入りにくい時は無理に入れずに、走行クラッチレバーを「入（走行）」へ少し動かし確実にギヤチェンジを行ってください。



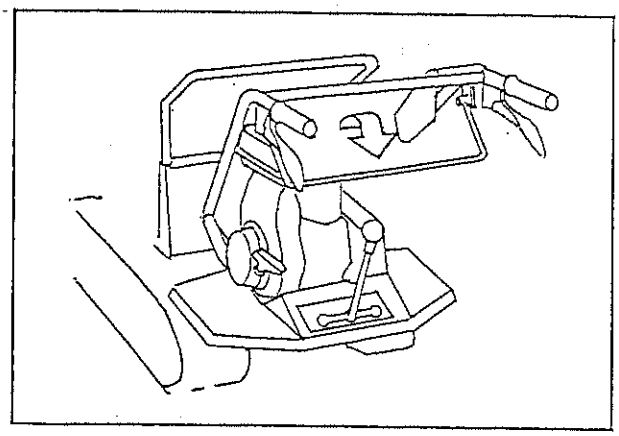
走行クラッチレバーを「上（走行）」に引き上げます。

旋回しようとする側のサイドクラッチレバーを握るとその方向へ旋回します。

走行時の注意

(1)発進する時は、周囲の安全を確認して発進してください。
(2)急激な発進および制動はなるべくお避けください。
(3)河川敷、砕石地盤上、鉄筋、丸太上での使用はできるだけ避けてください。
　ゴムクローラの寿命が著しく短くなります。

停止のしかた （車体の場合）

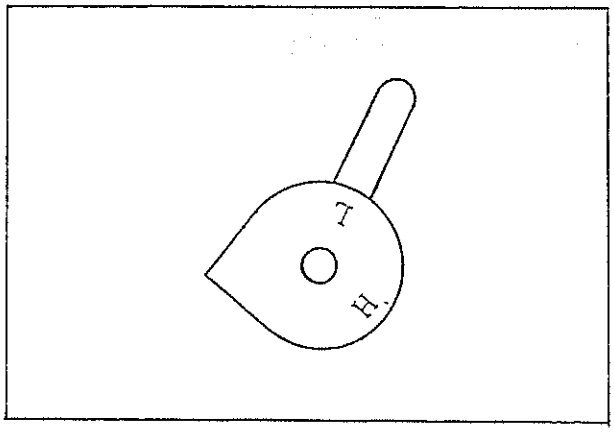


走行クラッチレバーを「下（停車）」に押し下げます。

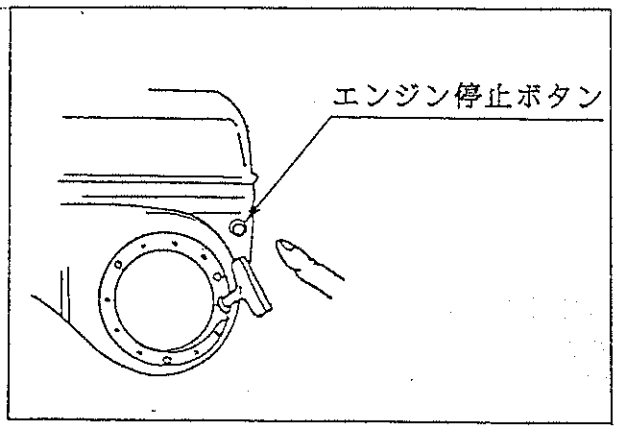
傾斜地では車体が浮き上がることがありますので充分に注意してください。

停止のしかた （エンジンの場合）

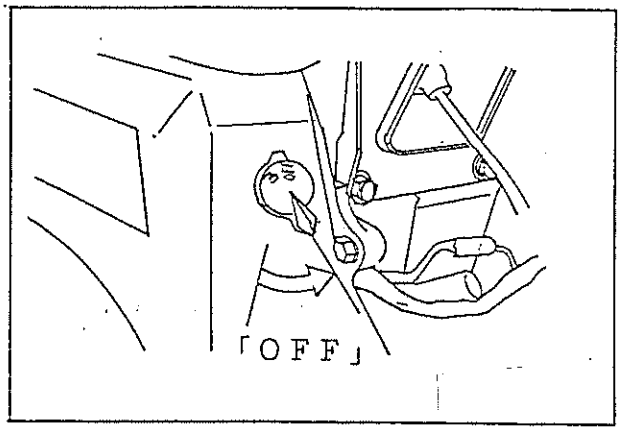
リコイルスターター式



スロットルレバーを「L」にします。

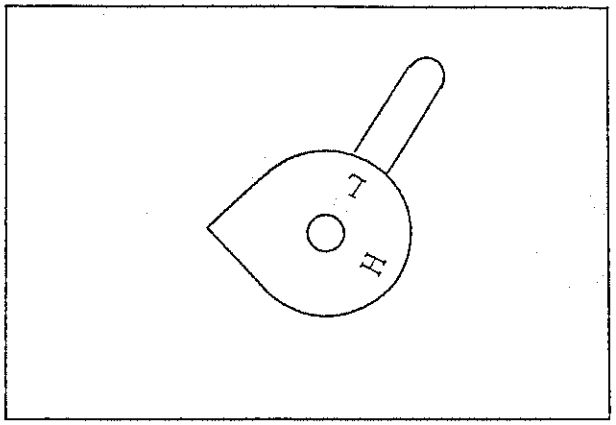


エンジン停止ボタンを押します。
（GM90，GM130）

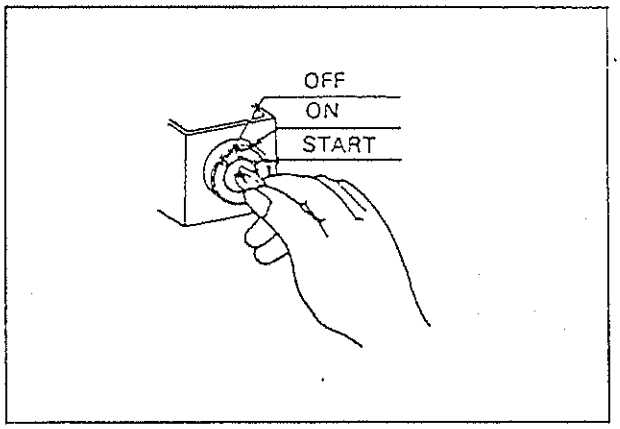


スイッチを「ＯＦＦ」にします。
（ＧＳ１２０，ＧＨ１００）
（再始動時はスイッチを「ＯＮ」にします）

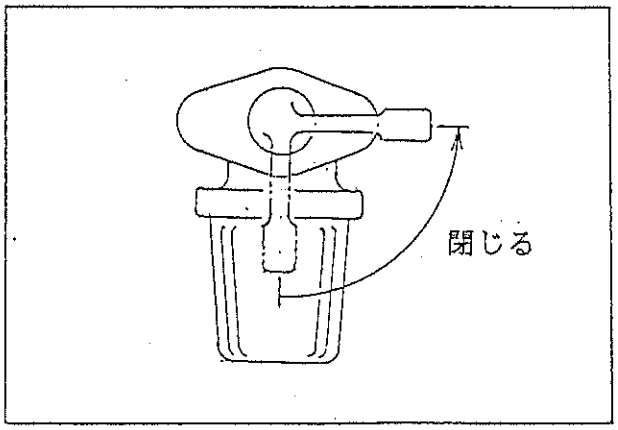
セル付エンジン



スロットルレバーを「Ｌ」にします。

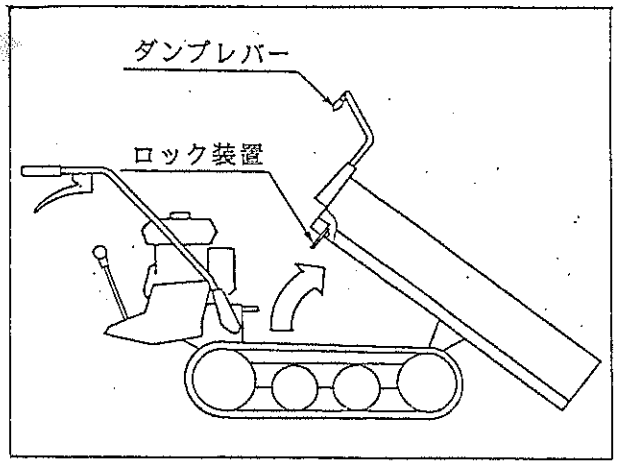


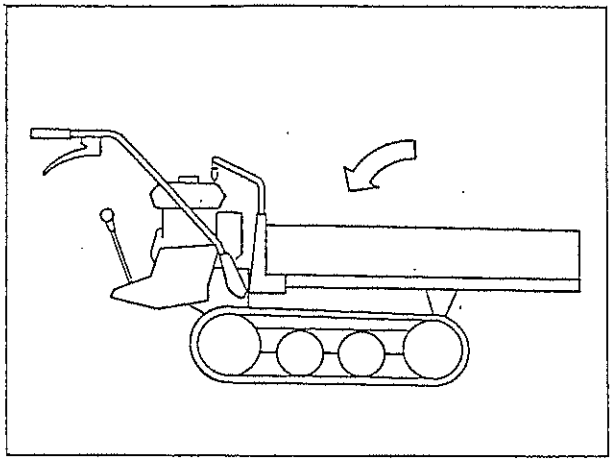
キースイッチを「ＯＦＦ」にします。
キーを抜きます。



最後にセル付・セルなし両仕様エンジンとも燃料コックを閉じます。

ダンプ操作





上昇

ダンプレバーを握ると荷台のロック装置が解除されますので、荷台を持ち上げてください。

下降

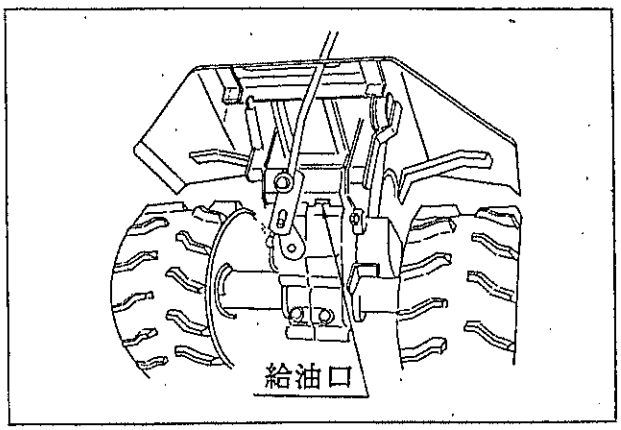
荷台を下げるとロック装置がはたらき、荷台が固定されます。この際、荷台が確実にロックされたか確認するためダンプレバーを握らずに荷台を持ち上げてみてください。

手動ダンプ操作の際、積荷が前方に片寄っていたりしますと、ロックの解除と同時に荷台が急にダンプすることがありますので充分注意してください。

本製品の簡単な手入れと処置

給油・注油

給油がおろそかになりますと、回転が円滑に行なわれないばかりでなく故障の原因となって機械の寿命を短くしますので、常に指定の良質オイルを過不足なく給油してください。

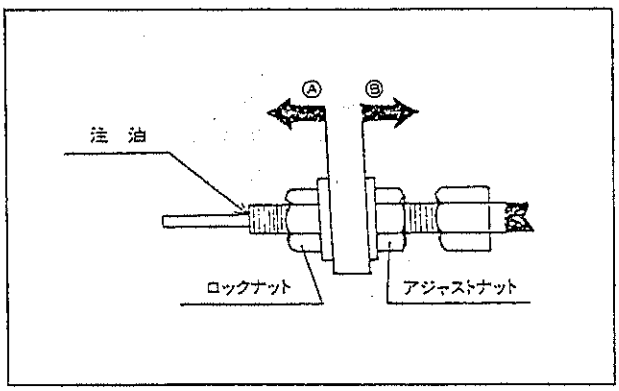


・ミッション

ギヤオイル　０．７ℓ
ＡＰＩ：ＧＬ４又はＧＬ５
ＳＡＥ：＃９０

※各摺動部にはグリース塗布、又は注油を行ない焼き付きやサビを防止してください。

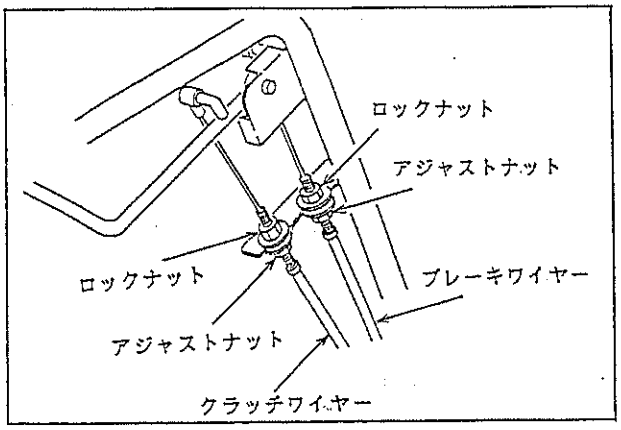
走行クラッチ調整



・走行クラッチの切れが悪い場合
　アジャストナットをⒷの方向へ

・Ｖベルトがすべる場合
　アジャストナットをⒶの方向へ

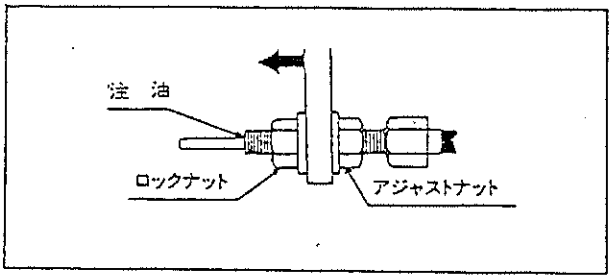
走行クラッチの調整は、左図のクラッチワイヤーのアジャストナットで行なってください。
要領は上記の通りです。



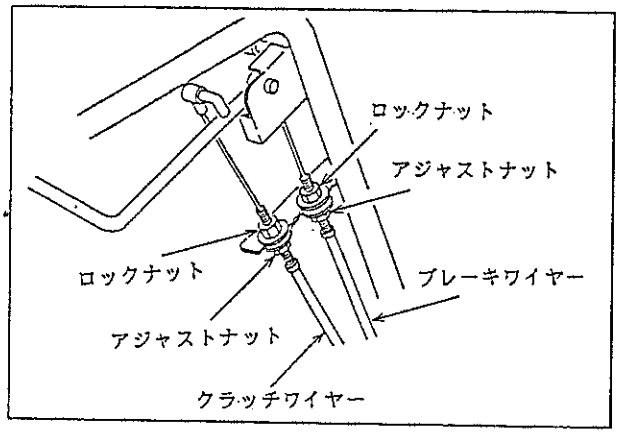
⚠ 必ずエンジンを止めた状態で行ってください。

ブレーキ調整

最も重要な調整にブレーキ調整があります。
少しでも甘くなったりした場合は即座に下記の調整を行ない、常に安全を心がける様にしてください。



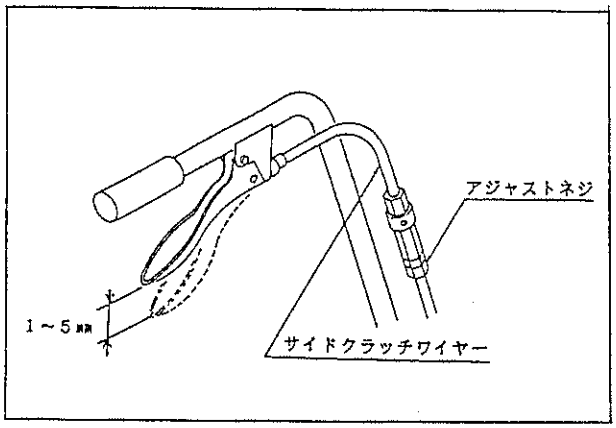
ロックナットをゆるめ、アジャストナットを矢印の方へ。



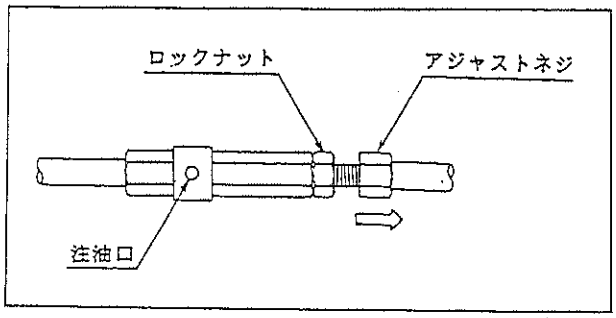
ブレーキの調整は、左図のブレーキワイヤーのアジャストナットで行なってください。
要領は上記の通りです。

必ずエンジンを止めた状態で行ってください。

サイドクラッチ調整



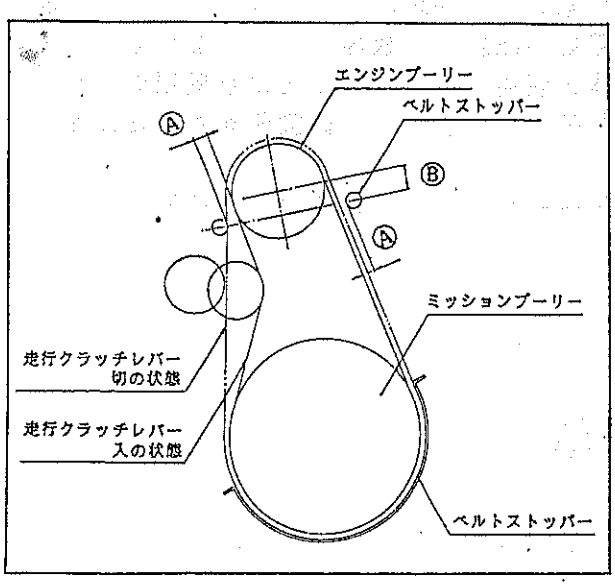
サイドクラッチレバーに遊びが多くなった時、又は旋回がスムーズに行なえない場合はサイドクラッチワイヤーのアジャストネジにて調整を行なってください。



左図の様に、ロックナットをゆるめ、アジャストネジを矢印の方向へ伸していくとレバーの遊びは少なくなります。
※サイドクラッチレバーの遊びは、レバー先端部で１～５㎜程度取ってください。

必ずエンジンを止めた状態で行ってください。

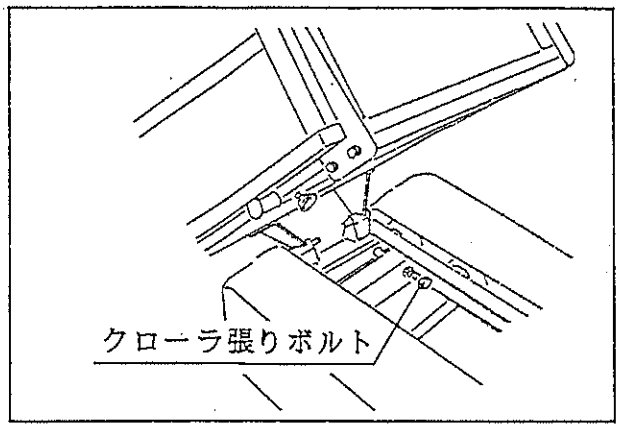
ベルトストッパー調整

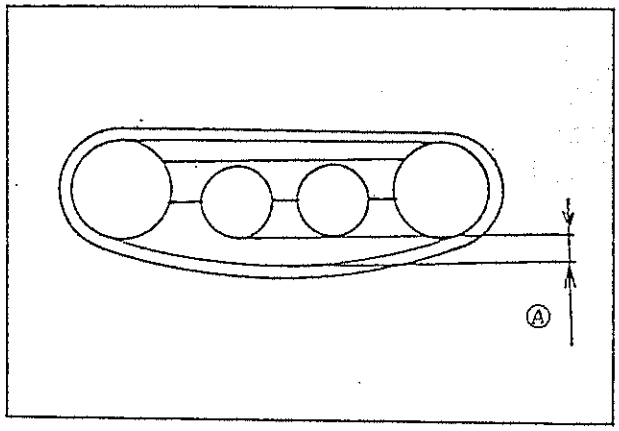


クラッチが完全に切れない原因にベルトストッパーの調整不良があります。
ベルト交換等によりベルトストッパーをはずした場合、以下の様に調整してください。
ベルトストッパーは走行クラッチレバーを入れた状態で、Ｖベルトとベルトストッパーの間隔Ⓐを５～６㎜程度に、Ⓑの間隔を１０～２０㎜程度にセットします。
ミッションプーリー側のベルトストッパーは、ベルトとのすきまが全周にわたって約５㎜になるよう均一にセットします。

必ずエンジンを止めた状態で行ってください。

クローラ張り調整





クローラは新しい間の初期伸び、スプロケットとのなれによる緩みが生じますので、クローラ張りボルトにて調整してください。
図の様に運搬車を地面と平行に浮かせた状態でクローラと転輪のスキマⒶを１０～１５㎜とします。

寒冷時の注意

冬期は、使用後必ず車体に付着した泥や異物を取り除いて、平坦なコンクリートか固い乾燥した地面上または角材の上に駐車してください。付着物が凍結して故障の原因となります。
（極寒冷地においては、クローラの下に枕木等を車体と直角に敷いておくとより効果的です）
また、凍結して運転不能となった場合は無理に動かそうとせずに、凍結箇所を水・お湯等で解かすか、凍結が解けるまで待ってください。
（無理に動かした場合の故障については責任を負いかねますので特に御注意ください）

保守点検項目

・点検や整備を怠ると事故の原因になることがありますので特に御注意ください。
・○印は始業点検を示します。始業点検は、運搬車を運行する人が１日１回運行する前に行なう点検で、運搬車の周りを回りながら運搬車の状態をみることによって容易にできるものです。

点検箇所		点検項目
原動機	潤滑装置	① エンジンオイルの点検
	燃料装置	② 燃料タンクの点検 3 燃料こし器の点検
	エアークリーナー	4 エアークリーナーの点検
	始動・停止装置	5 回転数の点検 6 停止装置の点検 7 始動補助装置の点検
	主運動装置	8 シリンダー圧縮力の点検 9 シリンダー・ヘッドボルトの点検 10 バルブ・クリアランスの点検
電気装置	点火装置	11 点火プラグの点検 12 点火時期の点検 13 断続器の点検 14 進角装置の点検
	電気配線	15 接続部の緩み、損傷の点検
動力伝達装置	クラッチ	⑯ ベルトテンションの点検
	ミッション	17 ミッションオイルの点検（初回50時間、以後500時間毎交換）
	操作装置	⑱ 操作レバー作動の点検
制動装置		⑲ ブレーキ・レバーの引きしろの点検 20 ブレーキシューの点検
かじ取り装置	ｻｲﾄﾞｸﾗｯﾁﾚﾊﾞｰ	㉑ 遊び、緩み、がたの点検 ㉒ 操作具合の点検

点検箇所		点検項目
走行装置	クローラ	㉓ クローラの亀裂と損傷の点検 ㉔ クローラの異常な摩耗の点検 ㉕ クローラの金属片、石その他の異物の点検 ㉖ 転輪・遊動輪ナットの緩みの点検 ㉗ 転輪・遊動輪・スプロケットの損傷、がたの点検 28 クローラの張り具合の点検
その他		㉙ 各部油漏れの点検 30 各部グリースアップ（注油） ㉛ 各部ボルト・ナット類の脱落、又は緩みの点検

工具袋明細

No	部品名	規格・寸法	個数
1	取扱説明書		1
2	スパナ	24	1
3	エンジン工具	エンジン付属品	1

仕様

型式		BFP302	BFP303	BFP304
車体寸法 mm	全長	1745(1905) [1735]	1745（1905）	
	全幅	600 (975) [820]	600（975）	
	全高	840		
履帯 mm	接地長さ	590		
	幅	160		
	中心距離	440		
荷台内寸 mm	長さ	980 (1140) [940]	980（1140）	
	幅	520 (900) [740]	520（900）	
	高さ	185		
エンジン	連続定格出力	2.2～2.8PS/1800rpm	2.1PS/1800rpm	2.3PS/1800rpm
	最大出力	2.7～4.0PS/2000rpm	3.0PS/2100rpm	3.5PS/2100rpm
	始動方式	リコイル / セル	リコイル	リコイル / セル
車体重量 kg		130 / 135	130	130 / 135
最大作業能力 kg		200［250］	200	
最小回転半径 mm		1100		
最低地上高 mm		55		
床面高さ mm		355［360］	355	
速度	段数 前進	2		
	段数 後退	1		
	最高速度 km/h	3．7		
	最低速度 km/h	1．6		
クラッチ		ベルトテンション方式		
ブレーキ		内拡式ブレーキ		
ダンプの機構		手動ダンプ方式		
ダンプの角度		35°		
登坂能力（空車時）		25°		

※（　）内寸法は延長時を示します。
※［　］内寸法は箱型３方開を示します。
※本仕様は日本国仕様です。
※本仕様は改良により予告なく変更することがあります。